

# 季刊ジャネット Ja-Net

スリーエーネットワーク

July 2023

No. 106



徳島阿波踊り

## Contents

- 4 あちこち日本語ご紹介  
東京都 世田谷区
- 5 みんなの“日本語 View from the Other Side”  
ダナウ・タヌ
- 6 教材紹介  
『新版 サードカルチャーキッズ 国際移動する子どもたち』  
『改訂版 ニュースの日本語 聴解 50』  
『日本留学試験 記述 ポイント&プラクティス』
- 8 インフォメーション

## 巻頭寄稿

# サードカルチャーキッズと帰国子女

社会学博士

嘉納もも

## 「帰国子女」が生まれた背景

NHKの「プロジェクト X ～挑戦者たち～」というTV番組をご存じの方も多と思います。この番組が背景とする高度経済成長期は、日本の企業が海外進出を急速に進め、多くの駐在員を世界中に送り出すようになった時代でもありました。駐在員たちが家族

を帯同するケースも当然あり、それに伴って日本の外で幼少期を過ごす子どもたちが増えていきました。こうして日本社会において「帰国子女」と呼ばれる人々が登場するようになったのです。

## 「帰国子女」の変遷

私自身、商社マンだった父親の転勤によって11年間を主にフランスで過ごしています。幼稚園から高校一年生まで現地校に通い、9歳と12歳の夏休み以外は日本での生活経験がほとんどないまま「帰国」を迎えまし

た。1976年のことでしたから、帰国子女のハシリだったと言えます。

当時の日本では外国帰りの子どもに対して「日本語がたどたどしく、勉強についていけないに違いない」といった偏見がありました。私たち一家は両親の地元である神戸に戻りましたが、母は自分の出身校の私立女子校に私の受け入れを打診した際に、試験も受けさせてもらえずに断られたと嘆いていました。幸いにもその後、理解のあるカトリック系の学校に受け入れてもらったものの、一歩間違えれば私は編入先を失

いかねない状況だったのです。

ところが10年後のバブル経済期には逆に帰国子女がもてはやされる時代がきます。海外で育ったのであれば、言葉の上でも考え方の面でも外国人とのコミュニケーションを得意とするだろうと見なされ、帰国子女は日本の代表として国際的な場で活躍することを期待されたのです。入試の場でも特別な「帰国子女枠」が設けられるようになると帰国子女は「お得」というイメージが植え付けられ、同時にブランド化されるようにもなりました。

このような変遷をリアルタイムで目の当たりにした私は、社会学者としての道を歩み始めた後も疑問を抱き続けました。「なぜ子どもの体験の実態をよそに、『帰国子女』は一括りにされて時には『お荷物』になったり、『宝物』のように扱われたりするのだろうか？ 渡航した年齢や滞在した期間はもちろん、現地でどのような学校に通ったのかによっても全く違う経験となるはずなのに、なぜそこは問われないのだろうか？」と。

また、子どもたちの育った国や地域に対してあまり注意が払われないということに気づきました。私にはアメリカに6年ほど滞在した従姉がいますが、彼女と私の帰国時・帰国後の考え方や体験は驚くほど異なります。移民を多く受け入れてきたアメリカで育った従姉は、自分がアメリカ人であるという感覚を抱きながら日本に帰ってきたと言います。しかし私は彼女より長くフランスに



◀ パリに引越して間もない5歳の頃の筆者。エッフェル塔を背にして

▲ 当時14歳の筆者が通っていた高校の前で

住みつつも、常に自分はよそ者であることを自覚していました。この違いは私たちの日本での適応に大きな影響を及ぼしたと確信しています。

以上のような疑問や気づきは後々、私の研究テーマの根幹となり、「帰国子女ステレオタイプ」を打破することを目的として日本の大学で「帰国子女論」という授業を担当するに至りました。ところが2003年、まさにその授業の下調べをする中でデビッド・C. ポロックとルース＝ヴァン・リーケンの著書 *Third Culture Kids: The Experience of Growing Up Among Worlds* に出会い、研究者としても個人的にも大きな転換を迎えました。

## 「サードカルチャーキッズ」との出会い

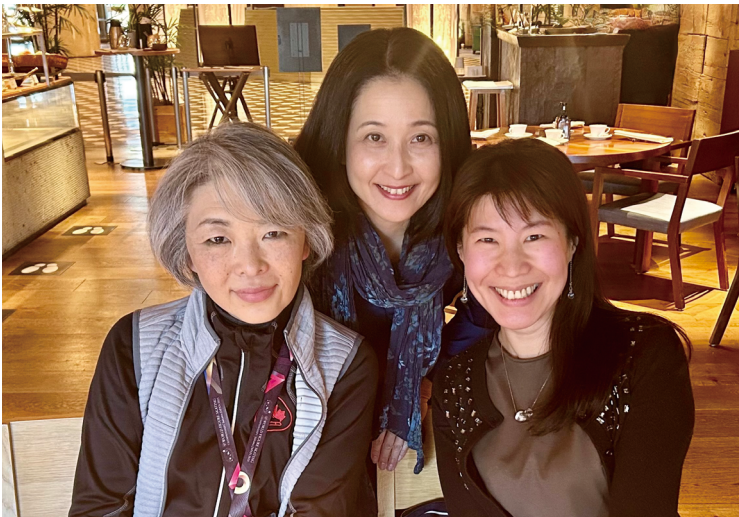
ポロックたちの本(1999年の初版の話ですが)に登場するサードカルチャーキッズと呼ばれる子どもたちは主にアメリカ人でしたが、幼少期に親

の仕事の関係で国際移動を繰り返し、異文化環境の中で長期間育った経験を持つという点では日本の帰国子女と同じでした。

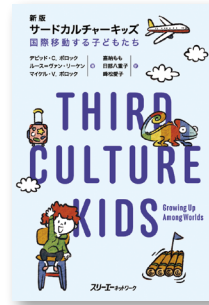
しかしポロックたちは、親の国の文化でもなく、住んでいた国の文化でもない、<sup>はぶこ</sup>間文化で育ったサードカルチャーキッズ(以下「TCK」)の体験や、そこから生まれる特色が帰国後のアメリカでどう捉えられるのかにはさして言及していませんでした。あくまで当事者自身の立場からどのような利点があり、難点があるのか、の議論を展開していたのです。私はこのような当事者を中心に据えた「利点・難点」形式の分析に非常に感銘を受け、日本で帰国子女を議論するときに抜け落ちている視点だと思いました。

帰国子女が時代や状況によって憧れの的になったり厄介者とされたりするのは、「受け入れ側」である日本社会の都合であって、子どもたちの体験の内容が変わったからではありません。外国語ができることを羨ましがる人はいても、耳慣れない言葉を喋る先生やクラスメイト達に囲まれて一日中苦痛に耐えたことを考えてくれる人はいません。いろいろな国に行ったことで知識は増えたかもしれませんが、自分から好んで異文化交流をしたいと思ったわけではありません。良いことばかりが注

# 新たな概念を用いて 捉えなおす



『新版 サードカルチャーキッズ 国際移動する子どもたち』共訳者の3人。  
向かって左から筆者、日部八重子さん(中央)、峰松愛子さん



左:『新版 サードカルチャーキッズ 国際移動する子どもたち』

デビッド・C. ポロック、ルース=ヴァン・リーケン、  
マイケル・V.ポロック 著

嘉納もも、日部八重子、峰松愛子 訳(2023)

右:『サードカルチャーキッズ 多文化の間で生きる子どもたち』

デビッド・C. ポロック、ルース=ヴァン・リーケン 著

嘉納もも、日部八重子 訳(2010)

共にスリーエーネットワーク刊

目されますが、子どもたちにはそれを手に入れるために支払った代償もあることを理解することは大切です。

もう一つ重要な点として、TCK や帰国子女のライフスタイルが長期的にどのような影響を及ぼすのかを予測するのは難しい、ということがあります。そのため「自分の子どもを帰国子女にしたい」と思う親がいれば、それは傲慢かつ危険だ、とたしなめたくります。成長過程での異文化体験は思ってもみなかった化学反応を引き起こすこともあるのです。

## 「TCK」という新たな概念

なお、ポロックたちのTCK研究からは私自身が別の意味で「帰国子女ステレオタイプ」に捉われていたことも教わりました。私がフランスに住んで7年目になる頃、全日制の日本人学校が設立され、多くの日本人の駐在員家庭が子どもを通わせるようになりました。その子どもたちがフランス人の大勢いる地下鉄の中で日本語を喋り、時には周りの人を蔑むような冗談を言い合うのが私の目に奇異に映りました。そのせいか、彼・彼女たちとは一線を画し、同じフランス育ちであることを認めたく

ないという気持ちがありました。そのような思い出が、私に研究者としての客観性を失わせたのかもしれませんが、現地校に通い、現地の人々や文化と密接かつ長期的に関わった子どもにだけ、海外生活の影響が強くなると思いついていたふしがあります。

ところがTCKにおいては、そういった現地社会との関係ではなく国際移動が(少なくとも母国を離れ、また戻ること二度は)繰り返されたという側面の方がクローズアップされていたのです。そこで私は謙虚に自分の思い込みを認め、改めてTCKという概念を用いて日本人学校に通う子どもの体験について調べてみることにしました。

奇遇にも、当時指導していたゼミにマレーシアで何年かを過ごした学生がいたのですが、彼女は自分が外国帰りであることをあまり知られたくないと言いました。ずっと日本人学校に通っていたので「英語が喋れないから帰国子女と言えない」のがその理由でしたが、これには大いに反省させられました。ポロックたちの著書に出会っていなければ、私自身もこの学生を正しく指導することができていなかったに違いありません。幸い、彼女は自分の体験を

「TCK」という新たな概念を用いて捉えなおすことを学び、卒業論文にまとめることができました。

その後、縁があって私はポロックたちの著書の日本語訳に携わるようになりました。2010年に『サードカルチャーキッズ 多文化の間で生きる子どもたち』、2023年『新版 サードカルチャーキッズ 国際移動する子どもたち』(共訳 スリーエーネットワーク刊)が刊行されました。日本で帰国子女と呼ばれる子どもたちの体験を、TCKという新しい枠組みを使って捉えなおしてみる良い機会だと改めて感じています。



嘉納もも

(Momo Kano Podolsky)

神戸生まれ、カナダ・オークビル市在住。3歳から15歳までをイギリス・フランスで過ごす。関西学院大学大学院で社会学修士号、トロント大学大学院で社会学博士号を取得。専門はエスニシティ研究、帰国子女・TCK研究、異文化間コミュニケーション。京都女子大学現代社会学部准教授、トロント大学ムンク国際問題研究所 Harney Program in Ethnic, Immigration and Pluralism Studies 事務局長を経て2020年末にリタイア。現在は国際映画祭などの通訳、フィギュアスケートの大会ボランティアに勤む。

# あちこち日本語ご紹介

東京都 世田谷区

## アメリカの大学の日本キャンパスで 日本語を教える

テンブル大学ジャパンキャンパス

日本語講師 日部八重子

### テンブル大学日本校

テンブル大学ジャパンキャンパスは、アメリカペンシルバニア州にあるテンブル大学の日本校です。授業は英語で行われ、アメリカの学位が取得できます。

大学には様々なアイデンティティを持つ学生がいます。「サードカルチャーキッズ\*」の定義にあてはまる学生が多数います。アメリカで小・中・高等学校を過ごした日本人、自分を日本人と自覚するペルー日系三世、米軍沖縄基地育ちで小・中学校を日本の公立校に通ったアメリカ人などです。

その中で、家庭内では日本語が中心で、学校では英語が中心で育った、いわゆる日本語の継承語話者が、大学で日本語を学習するケースが多々あります。そのような学生は、第一言語は日本語であるにもかかわらず、自分

の日本語は完璧ではない事にコンプレックスをもっているように見受けられます。日本の教育を受けてこなかったため、話し言葉はほぼネイティブですが、読み書きが苦手です。そういった学生に教える時に私が気を付けているのは、継承語話者特有の言語運用を指摘することです。

### 継承語話者特有の言語運用とは

『中上級を教える人のための日本語文法ハンドブック』(スリーエーネットワーク刊)のコラム(p.271)に、「正しくない」とされる日本語の中には「そういう言い方が存在するかどうか」を見る「記述文法」と、「そういう言い方をすべきかどうか」を見る「規範文法」があります。継承語話者はこの「規範文法」に困っているようです。令和二年文化庁の調査では、可能形のら抜き言葉について「今年は初日の出が見れた」を使う人が全体の過半数に達しました。16-19歳においては83.3パーセントです。日本での生活では、多くの人が

ら抜き言葉を使っています。当然、日本語学習者は周りに倣うでしょう。しかしそれは教室内では間違っているとされます。

私の場合、クラスメートの前で「間違い」を指摘せず、宿題などで個人フィードバックをすることにしています。その際、様々な説明を添えます。「ら抜き言葉はよく使われるけれども、まだ規範ではない」「おさんぽ、おうち、などは美化語でお母さんが子どもに話しているように聞こえるから、使うときは気をつける」「しとく、してる、は口語では言うけれども、書くときには省略形を使わない」といった具合です。また耳から日本語を学習した者にとっては長音表記も簡単ではないようです。学期の最初に、「あなたは継承語話者だからそのつもりでフィードバックをしますね」とあらかじめ言うこともあります。

### ルーツの文化に触れる

自信をつけさせるという取り組みの一つとして、茶道ワークショップなども取り込んでいます。日本語の継承語学習者が、ルーツである日本文化に触れることは大切だと思います。

茶道の稽古を重ね、学期末に発表するという流れを通して、楽しさや成功体験を日本語学習と関連づけます。成功体験はモチベーションアップにつながり、よりアクティブな学習へと繋がると信じています。

今後は、茶道だけではなく、いけばな・着付け・書道などを含めた日本文化実習コースを日本語プログラムの中に設置できないかと考えているところです。



茶道体験ワークショップで楽しみながらも真剣に取り組んでいる学生たち



茶道と着付けがテーマで行われた日本文化クラブ(学内)の発表会

\*国際移動を繰り返す、さまざまな国や文化の影響を受けながら独自の生活体験をしてきた子どもたち

# みんなの“日本語View from the Other Side”

このコラムでは、学習者や日本語に携わる方の視点から話題をお届けします



## ダノウ・タヌ

1976年 カナダ、トロント生まれ  
1982年 インドネシアのインターナショナルスクール(以下、インター校)で学ぶ  
1987年 日本の公立小学校5年生に編入  
1988年 在インドネシア、インター校(中学校)編入  
1994年 カナダ、日本、オーストラリアの大学で学ぶ  
2000年 名古屋大学研究生として留学  
2001年 シンガポール、カナダで翻訳の仕事、オーストラリアで日本語教師  
2015年 論文「Third Culture Kids&インター校について」博士号取得  
2022年 早稲田大学アジア太平洋研究センター研究員として来日

illustration 内山洋見

## 母語を大切に

私の父は中国系インドネシア人、母は日本人です。母は日本の大学で中国文学を勉強したあと、シンガポールに留学しました。そこで、留学していた父と出会いました。二人の共通語は中国語でした。

父と母はカナダに移住し結婚、私はトロントで生まれました。母が妊娠し通っていた病院で、ある日本人老夫婦から「子どもが生まれたら日本語を教えなさい。私たちは孫とお話できなくなってしまうから」と言われたそうです。トロントは英語の社会、親同

## 言語・文化に上下はない

士は中国語。母と私は生まれた時から日本語、父とはインドネシア語でした。

母語が公用語でない社会では、バイリンガルの子どもには公用語だけで話したほうが混乱しないと思われがちですが、自らのアイデンティティ形成のためには、母語を大切にすることが必要だと思います。

## 母への感謝

私が3歳半の時、家族でインドネシアに引っ越しました。インドネシアと日本の学校に1年ずつ通いましたが、主にインターナショナルスクールに通っていました。私の第一言語は英語になりました。

15歳の時、あることで母と言い合いになりました。日本語で上手く言えなかったのが、母が英語が得意でないことを知っていたながら、敢えて英語で(ガガーッときつい調子で)言い返してしまいました。すると母は「もうインターに行かなくていい」と、分厚い英語の教科書をゴミ箱に捨ててしまいました。母がなぜそんなに怒るのか、その時はよく分からなかったのですが、私が英語で話したことにある種の傲慢さを感じたようです。「言語や文化に上下はない」ことに私は気づかされました。今、思い返しても、母には感謝しかありません。

## 日本での生活

私は、小学校、大学、大学院、それぞれ1年間ずつ日本に滞在しました。

小学校の漢字テストはいつも100点満点中0点〜30点、それを教室の前に貼り出されました。そのことはたいてい気にしませんでした。それより学校の友達関係や女子グループの上下関係が苦手な1年でした。

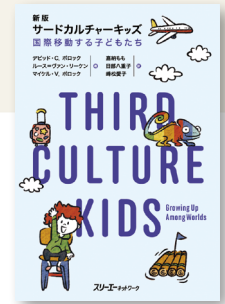
また、丁寧な大人の日本語は話せず、19歳位までは、ため口の日本語しか話せませんでした。カナダの大学から日本の大学に編入することになり、急遽小学校3年レベルから日本語能力試験1級レベルまでの日本語学習を1カ月半集中して勉強し1級に合格しました。「やればできる!」と自信がつかれましたが、日本語特有の遠回しの言い方や日本の生活・習慣に慣れるのに難しさを痛感したのも事実です。

## 「日本」に対するわだかまり

30歳を過ぎて、ルース＝ヴァン・リーケンの書いた記事「6歳の時、寄宿学校に入った時は寂しかった」を読み、自分の体験と重なって、涙が溢れ出し、止まらなくなりました。その頃から徐々に自分の心の中にあつた「日本」に対するわだかまりのようなものも消えていった気がします。

このルースの記事もきっかけとなって、日本に住む帰国子女、移民、インターナショナルスクール生など、様々な多文化を背景に持つ子どもたちについての研究を日本でやってみようと思ひ立ちました。

世界の子どもたちが自分の言語・文化を大切に生きてほしい、「言語・文化に上下はない」と伝えたいのです。



## 『新版 サードカルチャーキッズ 国際移動する子どもたち』

デビッド・C. ポロック、ルース=ヴァン・リーケン、マイケル・V. ポロック 著  
 嘉納もも、日部八重子、峰松愛子 訳  
 四六判 464頁 2,420円(税込) 6月発行

## 各国で翻訳出版されたインターナショナルベストセラーの新版

峰松愛子

### 内容

本書は『サードカルチャーキッズ 多文化の間で生きる子どもたち』(2010年9月発行)の新版です。新たな共著者としてデビッド・C. ポロックの息子で、自身もサードカルチャーキッズであるマイケル・V. ポロックが加わりました。サードカルチャーキッズ(TCK)とは、国際移動を繰り返し、さまざまな国や文化の影響を受けながら独自の生活体験をしてきた子どもたちのことです。2017年、第3版にアップデートされた原著 *Third Culture Kids: Growing Up Among Worlds* の内容を、日本の読者に読みやすいように再構成しました。

新たに取り入れた内容は下記の通りです。

### 1) クロスカルチャーキッズ(CCK)の概念

CCKは、移民・難民の子どもなどグローバル化した世界の中でTCKの枠に収まらない、多文化で生きる子どもたちのことです。ますますグローバル化する現代において、複数の文化の間で生きる子どもたちの体験を幅広く捉え、理解を深めることを目的として、原著者のルース=ヴァン・リーケンが新しく提唱している概念です。

### 2) TCKを理解するためのコラム

新たに二つのコラムが加わりました。一つ目の「子どものアイデンティティ形成について」は、国際移動を繰り返す場合と定住した場合で、子どものアイデンティティ形成にどのような違いがあるかが述べられています。二つ目は共訳者の1人で社会学者の嘉納ももさんによるコラム『「帰国子女」と『サードカルチャーキッズ』』です。よく耳にする「帰国子女」とTCKの共通点と違いが分かりやすく書かれています。

### 3) ソーシャルメディアの普及に合わせた内容

本書には世界中のTCK・CCKの体験談が随所に掲載されています。初版が発刊された13年前と比べて、SNSの普及等、コミュニケーションツールの発展でTCKの体験は大

幅に変わった点もあれば、根本的に変わらない「アイデンティティ」や「居場所」に関する難点もあります。

### 構成と特徴

三つの章に分かれています。

#### 第1章 サードカルチャーキッズの世界を理解する

(TCK・CCKの定義・幼少期の移動と異文化体験が及ぼす影響)

#### 第2章 サードカルチャーキッズの特徴

(TCKがあわせ持つ利点と難点)

#### 第3章 サードカルチャーキッズの道のり

(具体的なTCKの支援方法)

本書には、世界中のTCKやその家族に「自分という存在が突然世界から消えてしまったような、そんな想いを抱えているのは自分だけではない」と気づかせてくれる力があります。

### 活用方法

本書は一般書ですが、語学の授業で内容言語統合型学習(Content and Language Integrated Learning・CLIL)の補助教材としても活用できます。CLILアプローチでは、学習者が持つさまざまな言語材料を活用し、内容と言語の双方を学習します。

CLIL教材として活用することで「言語で学ぶ」授業ができるのは言うまでもなく、多文化共生や他者理解について具体的に考えながら学ぶことができます。日本語上級者や、英語の原書が読める学習者を対象とした日本語の授業でも活用できることでしょう。

国際移動を繰り返し、異文化体験をしながら育った当事者や、その家族、教育者、支援者の皆様には是非読んでいただきたい一冊です。

## 『改訂版 ニュースの日本語 聴解 50』

瀬川由美・紙谷幸子 著

B5判 206頁 別冊40頁(予定) 2,640円(税込) 9月発行予定



## ニュースを聞いて、日本の今を知る

瀬川由美

本書は、『ニュースの日本語 聴解 50』の改訂版です。中級後半以上の学習者を対象に、ニュースの構成と特徴的な表現を学び、ポイントをつかむ力を養成することによって、生のニュースが聞き取れるようになることを目指したものです。

初版発行から10年以上が経ち、「日本の今」に合った内容にするため、50のニュースをすべて改めました。また、改訂版では、ニュースおよび重要語

彙と重要語彙の例文の音声のスリーエーネットワークのウェブサイトから無料で聞けるようになりました。

収録した50のニュースは、実際に放送されているニュースと同じ形式で、実践的な聴解練習ができます。50のニュースの内訳は「金融・経済」が20、「政治・行政」が12、「社会・生活」が18と、分野ごとに載っていますので、興味のあるところから勉強することも可能です。

別冊には、英語・中国語・韓国語の訳が付いた約500の重要語彙と、例文がまとめてあります。ニュースによく出てくる語彙を集中的に学ぶことができるので、各課の理解のみならず、発展的な学習にも利用可能です。

本書を通じて、ニュースが分かるおもしろさを知ると同時に、日本の社会で日々起きている出来事について理解を深める助けとなれば幸いです。

## 『日本留学試験 記述 ポイント&プラクティス』

アークアカデミー 著

B5判 70頁 別冊30頁(予定) 1,540円(税込) 10月発行予定



## 意見文の書き方を段階的に学習

熊野由佳里

本書は、「日本留学試験 ポイント&プラクティス」シリーズの一冊です。中級前半レベルの学習者や書くことに苦手意識を持つ学習者を対象として作成しました。初めて日本留学試験を受ける学習者でも、限られた時間内で400字程度の意見文を書けるようになることを目指しました。

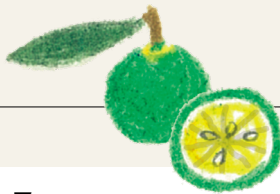
本書は3つの章と模擬試験の全12回で構成されています。第1章1～3回目では、問題文の読み方、原稿用紙

の使い方、文体など、意見文の書き方を練習する前に必要なスキルを学習します。第2章4～8回目では、意見文を「意見、理由、具体例」などの要素に分けて、書き方を段階的に学習していきます。第3章9～11回目では、問題のタイプ別にメモから意見文を書く練習をします。12回目では、3回分の試験問題に挑戦することができます。

各回では、扱うトピック(「科学技術、環境、経済」など)が決まってお

り、トピックに関する語彙や情報が最後のページに載せられているため、「書く内容が思いつかない」という学習者も知識を広げることができます。

授業はもちろん、独習用教材としても活用できるよう英語、中国語、ベトナム語訳が付いています。記述試験対策の1冊目として、ぜひ、本書をご活用ください。



## 本

日本留学試験 読解 ポイント&プラクティス	1,540 円	8 月発行予定
みんなの日本語 初級 I 第 2 版 翻訳・文法解説 ネパール語版	2,200 円	9 月発行予定
改訂版 ニュースの日本語 聴解 50	2,640 円	9 月発行予定
JLPT 文字・語彙 N5 ポイント&プラクティス	1,320 円	10 月発行予定
日本留学試験 記述 ポイント&プラクティス	1,540 円	10 月発行予定
聞いて慣れよう日本語の敬語―場面で学ぶ日本語コミュニケーション―	2,420 円	10 月発行予定

## お知らせ

### スリーエーネットワーク創立 50 周年記念 『新版 サードカルチャーキッズ 国際移動 する子どもたち』読者プレゼント

当社は 1973 年 7 月 28 日に創業し、本年 50 周年を迎えました。これもひとえに、皆様のご支援のおかげです。心より感謝申し上げます。

皆様へ感謝の気持ちを込めて、6 月発行の『新版 サードカルチャーキッズ 国際移動する子どもたち』を抽選で 50 名の方にプレゼントいたします。サードカルチャーキッズとは、国際移動を繰り返し、さまざまな国や文化の影響を受けながら独自の生活体験をしてきた子どもたちを指します。子どもたちと関わりのある方だけでなく、日本語教育に携わる皆様におすすめの書籍です。

#### 【応募方法】

ウェブフォームに必要事項をご入力ください。



<https://bit.ly/3Oe4pPJ>

#### 【締め切り】

2023 年 8 月 31 日 (木) 23 : 59

#### 【当選発表ならびに個人情報の取り扱いについて】

プレゼントの当選発表は商品の発送をもって

てかえさせていただきます (9 月発送予定)。また当選案内の連絡がつかない場合、当選は無効となります。応募していただいた方の個人情報はプレゼント発送以外の目的には使用いたしません。

#### 『日本語初級 大地』シリーズ電子書籍配信開始

初級総合教材『日本語初級 大地』シリーズの一部書籍を電子書籍でもご購入いただけます。

- ・日本語初級 大地 メインテキスト
- ・日本語初級 大地 文型説明と翻訳 英語版
- ・日本語初級 大地 文型説明と翻訳 中国語版
- ・日本語初級 大地 教師用ガイド「教え方」と「文型説明」

書籍の価格は各電子書店でご確認ください。なお電子書籍の『日本語初級 大地 教師用ガイド「教え方」と「文型説明」』は、紙の書籍に付属していた CD-ROM の内容は収録されていません。当社ウェブサイトにて、『日本語初級 大地 教師用ガイド「教え方」と「文型説明」』付属 CD-ROM 収録資料を別売り、各 550 円 (税込) でご提供しています。

シリーズ電子書籍一覧



#### LINE スタンプ発売

『みんなの日本語』の登場人物、マイク・ミラーさんの LINE スタンプを発売しました。コミュニケーションにぜひ、ご利用ください。



#### LINE 公式アカウントお友達募集中

スリーエーネットワークの LINE 公式アカウントができました。日本語教材の新刊・近刊やセミナー開催情報をお届けします。お友達限定の特典も予定していますので、ぜひお友達登録をお願いします。



#### 表紙のイラスト

『阿波おどり』は徳島県を発祥とする約 400 年の歴史を持つ盆踊りです。毎年 8 月 12 日から 15 日、徳島市中心部には「連」と呼ばれる踊り手の集団が多数集まり、独特のお囃子で踊りながら、街を練り歩きます。

季刊ジャネット

# Ja-Net No.106

スリーエーネットワークという社名は、アジア (Asia)、アフリカ (Africa)、ラテン・アメリカ (Latin America) の三つの地域をネットワークでつなぎ、相互理解と友好促進を図ろうという趣旨をシンボライズしています。

2023 年 7 月 25 日発行

● 発行人 藤崎政子  
● 発行所 (株)スリーエーネットワーク  
Ja-Net 編集室  
〒102-0083 東京都千代田区麹町 3-4  
トラステイ麹町ビル 2F  
TEL : 03-5275-2722 FAX : 03-5275-2729  
E-mail : sales@3anet.co.jp  
<https://www.3anet.co.jp/>

● デザイン パーシック 畑中 猛  
● イラスト 竹永絵里 (P.1, 8)  
● 印刷 (株)ワコー  
© 2023 by 3A Corporation  
Printed in Japan (禁無断転載)

『Ja-Net』をご希望の方はお名前・ご住所・ご所属を編集室までお知らせください。無料でお送りいたします。次号は 2023 年 10 月 25 日発行予定です。